

## 「地域・在宅看護論」シラバス案作成のねらい

「地域・在宅看護論」では、あらゆる年代の疾病や健康障害のある人々やそのリスクの高い人々とそれを取り巻く家族、地域・コミュニティの人々に対して、生活の場で提供する看護を学びます。療養の場が拡大する現代社会の動向を踏まえ、地域における多様な場での看護実践をめざし、地域での人々の生活と健康を支援するための対象の理解や手法を学べるように、従来の「在宅看護論」の内容を一層充実して本書を作成しています。

今回の新カリキュラム改正では、地域・在宅看護分野に関連する事項として「地域・在宅看護論」と科目名が変更されたこと、その講義等の単位数が3年課程では現行の4単位から2単位増の6単位になったこと、統合分野の区分がなくなり専門分野の一つとして「地域・在宅看護論」が位置づけられ、低学年から「地域・在宅看護論」を学ぶことが推奨されています。また、領域を横断する弾力性の高いカリキュラム編成やアクティブラーニングの導入についても勧められています。

このような改正方針を踏まえ、地域・在宅看護論を担当される教員の先生方のカリキュラム作成に役立てていただきたくシラバス案を作成しました。シラバス案では、地域・在宅看護論関連科目として概論、支援論、対象論、演習の4科目から構成していますが、概論部分や演習の第1～8回（技術演習）までの授業内容を基礎看護学関連科目と組み合わせる、演習の第9～15回（管理演習）までの授業内容を領域横断的な科目として位置づけることもできます。また、保健師養成課程がない大学も増えていることから、学士教育課程におけるコアとなる5つの看護実践能力と照合できるように組み立てています。さらには、学生が主体的に学習し、知識を実践に活用できるように各授業内容に「課題」を提示しています。

将来、地域に目を向け、人々の生活と健康を守ることができる確かな基礎力を有する看護人材を育成できることを願いつつ、それぞれの教育機関のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーにしたがって、シラバス案を柔軟に活用していただければ幸いです。

2021年11月

新体系看護学書「地域・在宅看護論」編者  
大阪市立大学院看護学研究科 在宅看護学 河野あゆみ

授業科目名	地域・在宅看護論 (1) : 地域・在宅看護概論	分野・科目	専門分野 地域・在宅看護論
単位数	1 単位	開講学年	1 年次
担当教員	●●●	授業形態	講義 (1 単位=15 時間想定)
<b>科目の概要</b>			
<p>すべての人々は、地域で生活を営んでおり、入院治療が必要になったときに病院で看護を受け、地域に暮らしているときに地域で看護を受ける。地域で暮らす人々の生活と健康を支えることは看護の基本である。</p> <p>本科目の目的は、地域の人々の尊厳と権利を守り、生活と健康を支援するための地域・在宅看護の基本的な理念や機能を修得することである。</p> <p>本科目では地域での生活と健康を支えるために多様な機関から提供されているケアの概観を踏まえた上で、地域・在宅看護の機能、対象、理念、地域における看護実践の変遷や基本倫理を理解する。</p>			
<b>授業の到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活に及ぼす影響を説明できる。</li> <li>・生活と健康をめぐる社会の動向をとらえ、地域におけるケアの必要性について、説明できる。</li> <li>・地域における生活と健康を支えるケアの内容について、説明できる。</li> <li>・地域・在宅看護の目的、機能ならびに対象について、説明できる。</li> <li>・地域・在宅看護の理念の基本事項を理解した上で、看護実践との関連について説明できる。</li> <li>・地域における看護実践の変遷について、説明できる。</li> <li>・地域・在宅看護の基本となる倫理について、説明できる。</li> </ul>			

	授業内容	授業計画	教科書の該当章・節
1	地域の人々の生活と健康	<p>【講義】地域のとらえ方を理解し、地域における生活と健康についての考え方を学ぶ。</p> <p>【課題】教育機関が所在する地域（学生が暮らす地域でもよい）の①物理的環境、②社会的環境、③地域の文化・人々の関係性を書き出し、④人々の生活や健康への影響について、話し合う。</p>	第1章：第1節「地域の人々の生活と健康」
2	生活と健康をめぐる動向	<p>【講義】人口・世帯、健康、保健・医療提供体制に関する動向について、各種統計データをとおして学ぶ。</p> <p>【課題】人口や疾病構造の変化によって、①子どもを産み育てる、②学ぶ、③働く、④疾患を治す、⑤療養する、⑤最期を迎えることがどのように変わるのか、話し合う。</p>	第1章：第2節「生活と健康をめぐる動向」
3	生活と健康を支えるケア	<p>【講義】地域の人々の住まいの多様性、人々の生活と健康を支えるケアの定義、内容ならびにケアの連携の概要について学ぶ。</p> <p>【課題】教育機関が所在する地域（学生が暮らす地域でもよい）において、どのような①人々の住まい、②医療介護福祉ケア、③インフォーマルなケアがあるかを調べ、話し合う。</p>	第1章：第3節「生活と健康を支えるケア」

4	生活と健康を支える地域・在宅看護	<p>【講義】地域・在宅看護の位置づけをとらえた上で、地域・在宅看護の機能、提供機関、対象、対象を理解するためのモデルについて、学ぶ。</p> <p>【課題】次の6種類の地域・在宅看護の提供機関を利用する人々の特徴と看護職の役割を文献やインターネットから調べ、話し合う。①訪問看護ステーション等、②医療機関の退院調整部門、③地域包括支援センター、④保健所や自治体、⑤介護福祉施設、⑥外来</p>	第2章：第1節「生活と健康を支える地域・在宅看護」
5	地域・在宅看護の理念の基本	<p>【講義】地域・在宅看護の理念となる地域共生社会、アドボカシー、ノーマライゼーション、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、エンパワメントの基本事項と看護実践との関連について学ぶ。</p>	第2章：第2節「地域・在宅看護の理念」
6	地域・在宅看護の理念からみた特徴	<p>【課題】地域・在宅看護の特徴を学ぶために各理念の看護実践への活用を網羅して理解できることを目的に、地域・在宅で暮らす療養者・家族への看護実践例を6例提示する。各実践例がどのような理念に沿って看護が提供されるのか、なぜそう考えたのか、話し合う。</p>	第2章：第2節「地域・在宅看護の理念」
7	地域・在宅看護の変遷	<p>【講義】地域における看護実践の変遷について理解し、地域・在宅看護実践の発展の特徴を学ぶ。</p> <p>【課題】国内外の地域で働く看護職の呼び方の変遷を調べ、それぞれの看護職がどのような役割をとっているのか、共有する。</p>	第2章：第3節「地域・在宅看護の変遷」
8	地域・在宅看護の倫理	<p>【講義】看護における倫理4原則を踏まえ、地域・在宅看護における倫理的問題の特徴と人々の尊厳と権利を守る解決法を学ぶ。</p> <p>【課題】地域・在宅看護における倫理的問題を含む事例を提示し、どのような倫理的問題があるのか、倫理4原則から分析し、その解決方法について、話し合う。</p>	第2章：第4節「地域・在宅看護の倫理」

評価方法	評価方法：試験（50%）、ワーク、レポート、プレゼンテーション（50%）により評価する。
教科書・資料	・新体系看護学全書「地域・在宅看護論」：メヂカルフレンド社
参考図書	・新体系看護学全書「ヘルスプロモーション」：メヂカルフレンド社

授業科目名	地域・在宅看護論 (2) : 地域・在宅看護支援論	分野・科目	専門分野 地域・在宅看護論
単位数	1 単位	開講学年	1 年次
担当教員	●●●	授業形態	講義 (1 単位=15 時間想定)
<b>科目の概要</b>			
<p>地域・在宅看護の支援には、対象者とその家族に対する個別の看護支援に加え、多職種から構成されるケアチーム、地域全体を俯瞰した看護支援を含む。</p> <p>本科目の目的は、地域全体を支える看護やケアのしくみを理解するとともに、地域で暮らす人々とその家族に看護を提供する際に必要な支援の基本とその根拠を修得することである。</p> <p>本科目では地域・在宅看護に関する制度や地域包括ケアシステムの基礎的知識を踏まえ、地域・在宅看護実践の主要分野である訪問看護の制度と機能を理解する。さらに、在宅看護過程、家族支援の基本を学び、多職種連携を基盤としたケアマネジメントと療養移行支援を理解する。</p>			
<b>授業の到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険や医療保険、障害者支援などを含む地域・在宅看護に重要な制度の概要について、説明できる。</li> <li>・地域包括ケアシステムの構成と機能を理解し、その中で重要な役割を担う地域包括支援センターの機能を説明できる。</li> <li>・訪問看護の制度と機能を理解し、訪問看護ステーションをはじめとする訪問看護の提供方法について、説明できる。</li> <li>・地域・在宅看護における家族のアセスメントや家族の介護ならびに意思決定に関する家族支援の方法を説明できる。</li> <li>・療養者と家族への看護支援の基本となる在宅看護過程の目的や方法について、説明できる。</li> <li>・ケアマネジメントの目的と機能を理解し、介護保険制度におけるケアマネジメントの提供方法について、説明できる。</li> <li>・病院の病床機能と看護の特徴をふまえ、地域、施設や転院への療養移行の際の支援の基本について、説明できる。</li> </ul>			

	授業内容	授業計画	教科書の該当章・節
1	地域・在宅看護に関する制度：介護保険制度	<p>【講義】介護保険制度の動向としくみ、社会資源の概要を理解し、地域・在宅看護における制度の活用について、学ぶ。</p> <p>【課題】教育機関が所在する地域（学生が暮らす地域でもよい）の住民向けの介護保険情報を調べ、その地域での制度利用申請からサービスを受けるまでのプロセスを調べる。</p>	第3章：第1節「地域・在宅看護に関する制度」A
2	地域・在宅看護に関する制度：医療保険制度、障害者支援制度	<p>【講義】医療保険制度と障害者支援制度の動向としくみ、社会資源の概要を理解し、地域・在宅看護における制度の活用について、学ぶ。</p> <p>【課題】教育機関が所在する地域（学生が暮らす地域でもよい）の住民向けの介護障害者支援情報を調べ、その地域での制度利用申請からサービスを受けるまでのプロセスを調べる。</p>	第3章：第1節「地域・在宅看護に関する制度」B,C
3	地域包括ケアシステム	<p>【講義】地域包括ケアシステムの発展経緯と構成ならびに機能を理解し、地域包括ケアシステムの重要な役割を担う地域包括ケアシステムの役割について学ぶ。</p> <p>【課題】ケア提供機関が連携し、系統だってケアを提供する地域</p>	第3章：第2節「地域包括ケアシステム」

		包括ケアシステムがなぜ必要なのか、①子ども、②精神障害者、③慢性疾患療養者、④高齢者の場合ごとに、ポイントを挙げ、話し合う。	
4	訪問看護の制度と機能	<p>【講義】訪問看護の目的と機能を理解し、訪問看護ステーションのしくみをはじめとする訪問看護の制度や提供内容、方法について、学ぶ。</p> <p>【課題】入院治療を終え在宅療養に移行する在宅酸素療法を導入する重度心不全の高齢者の事例を提示する。事例が訪問看護を利用する場合、どのような制度をもとに、訪問看護を利用できるのか、訪問看護導入の際に必要な書式をつくり、なぜそのように考えたのか話し合う。</p>	第3章：第3節「訪問看護の制度と機能」
5	地域・在宅看護における家族支援	<p>【講義】地域・在宅看護における家族のアセスメント方法を理解し、家族介護者への支援やならびに意思決定に関する家族支援の方法を学ぶ。</p> <p>【課題】第4回で提示した事例の家族について、ジェノグラムとエコマップを作成した上で、その家族が在宅介護にどのように関わっているか、話し合う。</p>	第4章：第2節「家族支援」
6	ケアマネジメントの展開	<p>【講義】地域・在宅におけるケアマネジメントの目的と機能、社会資源の位置づけを理解し、介護保険制度におけるケアマネジメントの提供方法や多職種との連携方法について、学ぶ。</p> <p>【課題】第4回で提示した事例について、必要なすべての社会資源を考え、社会資源の内容と頻度を記載したケアプランを作成し、なぜそのように考えたのか話し合う。</p>	第4章：第3節「ケアマネジメント」
7	在宅看護過程の展開	<p>【講義】在宅療養者と家族に対する看護過程の目的ならびに特徴をふまえ、看護過程の展開方法について、学ぶ。</p> <p>【課題】第4回で提示した事例が訪問看護を利用して、1か月経過した。その事例について、関連図等を作成してその事例のアセスメントを行い、看護目標と看護課題を明確にし、なぜそのように考えたのか、話し合う。</p>	第4章：第1節「在宅看護過程」
8	療養移行支援	<p>【講義】病院の病床機能とその看護の特徴を理解し、療養移行の動向をふまえた地域、施設や転院への療養移行の際の支援の基本について、学ぶ。</p> <p>【課題】急性期病院で入院治療を終えた患者が施設に入所する例を提示する。その事例について、施設の担当看護職へのサマリーと施設で継続してほしい看護について書き、なぜそのように考えたのか、話し合う。</p>	第4章：第4節「療養移行支援」

評価方法	評価方法：試験（50%）、ワーク、レポート、プレゼンテーション（50%）により評価する。
教科書・資料	・新体系看護学全書「地域・在宅看護論」：メヂカルフレンド社
参考図書	・関連図で理解する在宅看護過程 第2版：メヂカルフレンド社

授業科目名	地域・在宅看護論 (3) : 地域・在宅看護対象論	分野・科目	専門分野 地域・在宅看護論
単位数	2 単位	開講学年	2 年次
担当教員	●●●	授業形態	講義 (1 単位=15 時間想定)
<b>科目の概要</b>			
<p>地域・在宅看護の対象者には、すべての年代の多様な健康課題のある人々やそのリスクの高い人々、療養者とその家族が含まれる。</p> <p>本科目の目的は、地域・在宅看護にて重要な健康課題を理解し、対象者の状態に応じた根拠に基づく看護援助の方法と各健康課題からみたケアシステムの基本を修得することである。</p> <p>本科目では、慢性疾患管理、生活不活発病予防、認知症ケアと介護予防、難病ケア、エンド・オブ・ライフケアならびに専門的支援が必要な精神障害者ケア、小児ケア、複雑困難事例ケアの地域在宅看護実践について理解する。また、各健康課題の在宅療養移行期、安定期、リハビリテーション期、急性増悪期など病期に応じた看護支援を学ぶ。</p>			
<b>授業の到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病、慢性心不全、慢性腎不全、慢性呼吸不全、がん慢性期の療養者に必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> <li>・在宅療養の中で生活不活発病が起こる機序を理解し、生活不活発病予防に必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> <li>・認知症予防やケアのためのケアシステムを理解し、認知症の療養者に必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> <li>・介護予防のためのケアシステムを理解し、フレイルの予防や解決に必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> <li>・精神障害者のためのケアシステムを理解し、地域で暮らす精神障害者に必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> <li>・医療的ケア児のためのケアシステムを理解し、地域で暮らす医療的ケア児に必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> <li>・難病療養者のためのケアシステムを理解し、成人期・小児期の難病療養者に必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> <li>・末期がんと非がん療養者のエンド・オブ・ライフケアの特徴を理解し、必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> <li>・多様な健康問題や心理社会的問題を併存し、支援が難しい複雑困難事例に必要な看護援助と社会資源を説明できる。</li> </ul>			

	授業内容	授業計画	教科書の該当章・節
1	地域・在宅看護と慢性疾患管理の理解	【講義】在宅療養者に多い慢性疾患やマルチモビディティ(多疾患併存)の特徴を理解し、慢性疾患療養者のセルフケア、服薬管理、症状管理などの看護の特徴を学ぶ。	第6章：第3節「地域・在宅看護と慢性疾患管理」A,B 第7章：第3節「服薬管理」
2	地域・在宅看護と慢性疾患管理の実際1：糖尿病と慢性腎不全	【講義】糖尿病や慢性腎不全について、在宅療養移行期、安定期、急性増悪期の特徴を理解し、必要な看護援助と社会資源を学ぶ。 【課題】糖尿病、慢性腎不全、高血圧を併発している事例を提示する。関連図等を作成し、アセスメントを行い、どのように食事管理、水分管理、血糖管理、体重管理、服薬管理を行うとよいか、話し合う。	第6章：第3節「地域・在宅看護と慢性疾患管理」D,E
3	地域・在宅看護と慢性疾患管理の実際2：慢性心不全と慢性呼吸不全	【講義】慢性心不全や慢性呼吸不全について、在宅療養移行期、安定期、リハビリテーション期、急性増悪期の特徴を理解し、必要な看護援助と社会資源を学ぶ。 【課題】慢性心不全がある場合と慢性呼吸不全がある場合のそ	第6章：第3節「地域・在宅看護と慢性疾患管理」C,F 第7章：第3節「呼吸の援助」

		れぞれについて、生活の中で行うリハビリテーションのポイントを挙げ、どのような看護を行うとよいのか、話し合う。	
4	地域・在宅看護と慢性疾患管理の実際3：がん慢性期	<p>【講義】がん慢性期における症状や集学的治療方法、治療に伴う副作用の概要を理解し、高齢期と成人期におけるがん慢性期に必要な看護援助と社会資源を学ぶ。</p> <p>【課題】がん治療を行いながら、就労や育児などを行うにはどのような社会資源やサポートがあれば、療養者のQOLが維持できるのか、話し合う。</p>	第6章：第3節「地域・在宅看護と慢性疾患管理」G
5	地域・在宅看護と生活不活発発病の理解	<p>【講義】在宅療養の中で安静臥床や不活発な状態が続くことで起こる生活機能低下やそれに伴う肺炎、褥瘡、便秘、尿路感染、低栄養、脱水、抑うつ、意欲低下など生活不活発発病の特徴と必要な看護援助と社会資源を学ぶ。</p>	第6章：第4節「地域・在宅看護と生活不活発発病予防」
6	地域・在宅看護と生活不活発発病予防とケアの実際	<p>【課題】訪問看護を利用している寝たきり高齢者、脳梗塞後の療養者、事故による頸髄損傷の療養者の事例を動画教材や紙面教材で提示する。関連図等を作成してその事例のアセスメントを行い、看護目標と看護課題を明確にした上で、在宅療養への移行期とリハビリテーション期における看護計画を立案し、なぜそのように考えたのか、話し合う。</p>	第6章：第4節「地域・在宅看護と生活不活発発病予防」
7	地域・在宅看護と認知症ケア	<p>【講義】認知症の原因疾患、判定方法、生活における中核症状やBPSD、各病期や疾患毎の症状を理解し、早期発見や家族の介護受容支援をふまえた必要な看護援助と社会資源を学ぶ。</p> <p>【課題】病期ごと（MCI、初期、中期、後期）に生活の中でみられる認知症の症状を提示する。療養者と介護する家族への支援のポイントを挙げ、なぜそのように考えたのか、話し合う。</p>	第6章：第5節「地域・在宅看護と認知症ケア」
8	地域・在宅看護と介護予防	<p>【講義】フレイルの状態像や判定基準、起こりやすい健康問題を理解した上で、介護保険制度等におけるケアシステムの提供動向をふまえて、必要な看護援助と社会資源を学ぶ。</p> <p>【課題】フレイルが起こりやすい健康問題として、転倒、意欲の低下、筋力低下、低栄養などを取り上げ、各健康問題を予防する生活の心がけや注意点を対象者に説明する健康教育用のパンフレットを作成する。</p>	<p>第6章：第6節「地域・在宅看護と介護予防」</p> <p>第3章：第1節「地域・在宅看護に関する制度」</p>
9	地域・在宅看護と精神障害ケア	<p>【講義】精神障害のうち、訪問看護利用者の疾患として頻度の高い統合失調症の特徴や関わり方の基本を理解し、必要な看護援助と社会資源を学ぶ。</p> <p>【課題】統合失調症の療養者との訪問看護師とのかかわりに関</p>	<p>第6章：第7節「地域・在宅看護と精神障害ケア」</p> <p>第3章：第1節「地域・在宅看護に関する制度」</p>

		するプロセスレコードを提示する。看護師の言葉に療養者がどのように反応しているか、分析し、話し合う。	
10	地域・在宅看護と小児ケア	<p>【講義】発達障害，小児慢性疾患，小児がんなど地域・在宅看護の小児ケアの健康問題を理解した上で，高度の医療を生活の中で行う医療的ケア児に必要な看護援助と社会資源を学ぶ。</p> <p>【課題】医療的ケア児（人工呼吸器・胃瘻）の事例を提示する。事例が普通学校に通学する際のケアプランについて，医療，福祉，教育機関との連携や家族支援をふまえ，話し合う。</p>	<p>第6章：第8節「地域・在宅看護と小児ケア」</p> <p>第3章：第1節「地域・在宅看護に関する制度」</p>
11	地域・在宅看護と難病ケアの理解	<p>【講義】難病の定義と難病対策の動向を理解し，訪問看護利用者によくみられる医療と介護ニーズを併せ持つ筋神経系難病療養者に対する看護援助と社会資源を学ぶ。</p>	<p>第6章：第2節「地域・在宅看護と難病ケア」</p> <p>第3章：第1節「地域・在宅看護に関する制度」</p>
12	地域・在宅看護と難病ケアの実際	<p>【課題】ALSを題材にした映画（患者手記でもよい）を視聴する。教材の内容から，発症から重度障害に至るまでの病状進行に伴う療養者の心理と家族への影響はどのようなものか，話し合う。</p>	第6章：第2節「地域・在宅看護と難病ケア」
13	地域・在宅看護とエンド・オブ・ライフケア（EOL）の理解	<p>【講義】最善の人生の最期を目指すEOLの目的や動向をふまえ，アドバンスケアプランニング，緩和ケア，看取り，グリーフケアを含む看護援助と社会資源を学ぶ。</p>	第6章：第1節「地域・在宅看護とエンド・オブ・ライフケア」
14	地域・在宅看護とエンド・オブ・ライフケア（在）EOLの実際	<p>【課題】がんのEOLを学ぶために成人と小児の終末期がんの訪問看護利用者，非がんのEOLを学ぶために終末期の老衰と難病の訪問看護利用者の事例を提示する。関連図等を作成してその事例のアセスメントを行い，看護目標と看護課題を明確にした上で，緩和ケア期，看取り期，臨死期における看護計画を立案し，なぜそのように考えたのか，話し合う。</p>	第6章：第1節「地域・在宅看護とエンド・オブ・ライフケア」
15	地域・在宅看護と複雑困難事例ケア	<p>【講義】健康問題に加えて，家庭内虐待，経済困窮，自己放任，劣悪な住環境など多様で複雑な心理社会的問題を持ち，支援が困難な事例の特徴を理解し，必要な看護援助と社会資源を学ぶ。</p> <p>【課題】経済困窮にあり，家庭内虐待疑いのある高齢夫婦の事例を提示する。この事例に受診や支援を勧めるシナリオを作成し，ロールプレイを行い，かかわり方の工夫のしかたを話し合う。</p>	<p>第6章：第9節「地域・在宅看護と複雑困難事例ケア」</p> <p>第3章：第1節「地域・在宅看護に関する制度」</p>

評価方法	評価方法：試験（50%），ワーク，レポート，プレゼンテーション（50%）により評価する。
教科書・資料	・新体系看護学全書「地域・在宅看護論」：メヂカルフレンド社

<b>参考図書</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新体系看護学全書「経過別成人看護学③ 慢性期看護」：メヂカルフレンド社</li><li>・新体系看護学全書「経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」：メヂカルフレンド社</li><li>・新体系看護学全書「老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護」：メヂカルフレンド社</li><li>・新体系看護学全書「小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」：メヂカルフレンド社</li><li>・新体系看護学全書「精神看護学② 精神障害をもつ人の看護」：メヂカルフレンド社</li></ul>
-------------	--

授業科目名	地域・在宅看護論 (4) : 地域・在宅看護演習	分野・科目	専門分野 地域・在宅看護論
単位数	2 単位	開講学年	2 年次または 3 年次
担当教員	●●●	授業形態	演習 (1 単位=30 時間想定)
<b>科目の概要</b>			
<p>地域・在宅看護には、生活の場での個別の対象者への支援と地域への支援の視点を兼ね備えた技術が必要である。</p> <p>本科目の目的は、地域・在宅看護実践特有の生活と健康を支える援助技術と地域のケア体制をつくる観点をもって地域包括ケアシステムを展開するための技術の基本を修得することである。</p> <p>本科目は、技術演習（第 1～8 回）と管理演習（第 9～15 回）から構成される。技術演習では個別支援を展開することをねらいとした、相談・教育ならびにケアチーム内でのコミュニケーション、生活支援、医療ケアの技術を身につける。管理演習では、地域全体のケア・看護の質と安全を確保するためにリスクマネジメント、災害マネジメントの基本を理解し、保健医療福祉と連携した地域アセスメントに基づく地域包括ケアシステム展開の基本を身につける。</p>			
<b>授業の到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問の特徴やプロセスならびに必要な技術を説明できる。</li> <li>・療養者・家族との相談、教育ならびにケアチーム内でのコミュニケーションの特徴と技術を説明できる。</li> <li>・食事、排泄、清潔、移乗・移動に関する生活支援技術と医療ケア技術を説明できる。</li> <li>・呼吸管理や褥瘡管理に関する医療ケア技術を説明できる。</li> <li>・生活上の事故を防止し、地域・在宅看護実践に伴うリスクの特徴を理解し、必要なリスクマネジメントを説明できる。</li> <li>・災害が地域や在宅療養者に及ぼす影響を理解し、地域の医療福祉行政機関と連携した災害マネジメントを説明できる。</li> <li>・地域アセスメントから地域課題を導く方法を理解し、健康づくりや地域包括ケアシステムづくりの方法を説明できる。</li> </ul>			

	授業内容	授業計画	教科書の該当章・節
1	家庭訪問の特徴と実際	<p>【演習】1 日の訪問予定の確認、訪問時のケア手順・物品の準備、身なりやマナー、面接相談・教育方法、訪問後の記録や連絡調整、初回訪問時の注意点などを学ぶ。</p> <p>【課題】訪問看護ステーションと地域包括支援センターからの訪問時のシナリオを 2 種類作成し、療養者役、家族役、看護師役でロールプレイを行い家庭訪問の方法を学ぶ。</p>	第 7 章：第 1 節「生活を支えるコミュニケーション技術」:A～C
2	ケアチームのコミュニケーションの実際	<p>【演習】訪問記録や事業所内・他職種との連絡調整の手法、ICT を利用したコミュニケーションの実際や情報管理方法を学ぶ。</p> <p>【課題】訪問看護利用者例を提示し、その情報を訪問看護用記録システムや在宅ケアチーム用 ICT ツールに入力する。それらの情報をもとに、看護師、主治医、ケアマネジャー、ホームヘルパー、理学療法士、療養者、家族の役割を設定し担当者会議のロールプレイを行い、ケアチームのコミュニケーション方法を学ぶ。</p>	第 7 章：第 1 節「生活を支えるコミュニケーション技術」:D, E
3	生活の場における食事・栄養の援助	<p>【演習】食事・栄養のアセスメントや援助を理解し、経口摂取、経管栄養法管理、中心静脈栄養法管理に伴う看護の実際を学ぶ。</p>	第 7 章：第 3 節「生活を支える技術と医療ケア」A, H

		<p>【課題】①市販の嚥下調整食を試食し、嚥下機能に合った適切な調整食の選択法を考える。②経管栄養シミュレーターを用い、液体・半固形化栄養剤の注入の手順を学ぶ。③在宅中心静脈栄養法について輸液バック・ルート交換、入浴時の対応、消毒、トラブル解決、廃棄物処理の方法を動画やシミュレーションにて学ぶ。</p>	
4	生活の場における排泄の援助	<p>【演習】排泄行動のアセスメントや援助の基本をふまえ、補助具、尿器・便器、おむつ、採尿器の選択、膀胱留置カテーテル管理、ストーマ管理、排便管理に伴う看護の実際を学ぶ。</p> <p>【課題】①自力排便がしにくい寝たきり高齢者の事例を提示し、下剤、摘便、浣腸による排泄援助計画を立案する。②摘便・浣腸モデルにて、摘便、浣腸、おむつ交換、廃棄物処理の方法を学ぶ。</p>	第7章：第3節「生活を支える技術と医療ケア」B
5	生活の場における清潔の援助	<p>【演習】清潔のアセスメントや援助の基本をふまえ、入浴・シャワー浴介助、臥床者の清拭・洗髪・足浴、口腔ケアの実際を学ぶ。</p> <p>【課題】①片麻痺がある療養者の事例を提示し、在宅実習室で浴室に必要な補助具の準備、浴室や浴槽への移動・移乗、身体の洗い方、更衣までの一連の援助を行いその手順を学ぶ。②手作りしたケリーパッドで、臥床者の洗髪を行い、援助の方法を学ぶ。</p>	第7章：第3節「生活を支える技術と医療ケア」C
6	生活の場における移乗・移動の援助	<p>【演習】移動・移乗のアセスメントの基本をふまえ、移乗・移動介助、車椅子・寝台・歩行器等の活用法、リフト・スロープ・手すり等の住環境整備、転倒・転落予防に伴う看護の実際を学ぶ。</p> <p>【課題】車椅子移動が必要な事例と歩行が不安定な事例を提示する。学生の自宅の間取りを書き、各事例が生活する場合、①外出、②寝室、③屋内移動、④浴室、⑤トイレの移動でのリスクは何か、挙げた上で、安全に移動するための環境整備を計画する。</p>	第7章：第3節「生活を支える技術と医療ケア」D, H
7	生活の場における呼吸管理	<p>【演習】呼吸のアセスメントや呼吸リハビリテーションの基本をふまえ、在宅酸素療法管理、在宅人工呼吸療法管理（侵襲的、非侵襲的）に伴う看護の実際を学ぶ。</p> <p>【課題】医療機器業者等の協力を得て、在宅酸素療法、在宅での人工呼吸器（侵襲的、非侵襲的）の回路例を含む装置一式を使用し、管理の方法を学ぶ。</p>	第7章：第3節「生活を支える技術と医療ケア」E
8	生活の場における褥瘡管理	<p>【講義】褥瘡のアセスメントやリスク管理の基本をふまえ、皮膚、創傷を評価し、適切な局所治療と創傷管理、在宅での衛生材料の調達等や介護方法の教育を含む看護の実際を学ぶ。</p> <p>【課題】画像や褥瘡モデルを使用して多様な段階の褥瘡例を示し、DESIGN-Rにて評価し、適切な褥瘡管理の方法を学ぶ。</p>	第7章：第3節「生活を支える技術と医療ケア」F
9	地域・在宅看護とリスクマ	<p>【演習】リスクマネジメントの定義をふまえ、地域・在宅看護の</p>	第5章：第3節「リスクマネジ

	ネジメント	<p>アクシデント・インシデントの特徴とその防止の実際を学ぶ。</p> <p>【課題】訪問看護師の医療行為事故，伝達ミス，交通事故，感染予防，情報漏洩の例を提示し，訪問看護事業所として必要な対応策，訪問看護師個人として必要な対応策を話し合う。</p>	<p>メント」</p> <p>第7章：第3節「生活を支える技術と医療ケア」H</p>
10	地域・在宅看護と災害マネジメント	<p>【演習】災害が地域や療養者にもたらす影響を理解し，療養者と家族への防災対策の教育，医療機関・福祉機関・行政機関と連携した地域全体の災害危機管理の実際を学ぶ。</p> <p>【課題】重度の難病療養者（人工呼吸器装着，中心静脈栄養療法実施，膀胱留置カテーテル）の事例を提示し，大災害がおきたときの医療管理や生活ケアなどについて，訪問看護師として必要な対応策とその地域で必要な対応策を考え，話し合う。</p>	<p>第5章：第4節「災害マネジメント」</p>
11	地域アセスメントと地域包括ケアシステムづくり	<p>【演習】地域アセスメントから地域課題を明確にした上で，対応策を計画し，実行，評価と改善を行うPDCAサイクルによる地域包括ケアシステムづくりを学ぶ。</p> <p>【課題】高齢者の閉じこもりについて，大都市高層マンション地区と中山間地域の限界集落地区の場合の地域アセスメント例を提示する。各地区の地域課題と対応策を考え，話し合う。</p>	<p>第5章：第1節「地域アセスメントと地域包括ケアシステムづくり」</p> <p>第3章：第1節「地域・在宅看護に関する制度」</p>
12	多職種連携と住民協働による地域ケア会議の実際	<p>【演習】地域の人々の支援に必要な社会資源が入手できないことがある。多職種連携と住民協働による地域ケア会議にて地域課題を明確にし，社会資源の提案や開発を行う過程を学ぶ。</p> <p>【課題】近隣同士のつながりが希薄で，経済困窮者が多い地域でフレイルな独居高齢者が自宅で望む生活を送るために必要な社会資源を話し合うための模擬地域ケア会議を行う。</p>	<p>第5章：第1節「地域アセスメントと地域包括ケアシステムづくり」</p> <p>第7章：第2節「生活を支える地域づくりの技法」A</p>
13	地域交流を基盤とした健康増進と疾病予防	<p>【演習】地域交流を基盤とした健康の保持増進と疾病予防の必要性を理解し，地域の人々に健康増進や疾病予防のための啓発を行うためのプログラムの運営や住民組織との協働を学ぶ。</p> <p>【課題】訪問看護ステーションを基盤に「まちの保健室」を開設し，次のプログラム運営のための企画案をつくる。①介護者の健康管理，②介護者のグリーフケア，③高齢者のための人生会議，④認知症の早期発見・対処，⑤マルチモビディティと適切な受診</p>	<p>第5章：第2節「健康づくりと疾病予防システム」</p> <p>第7章：第2節「生活を支える地域づくりの技法」B,C</p>
14	療養者の生活と健康支援のための地域包括ケアシステムづくりの実際	<p>【課題】学生がテーマを選び，実習地域（養成機関がある地域でもよい）の地域アセスメントを行い，地域課題を明確にし，自助・共助・互助・公助を考慮した対応策をつくる。</p> <p>①精神障害者の社会参加のためのケアシステム ②難病患者の社会交流のためのケアシステム ③医療的ケア児の療育支援のためのケアシステム</p>	<p>第1章～第6章まで総合的に活用</p>

		④がん患者の療養移行支援のためのケアシステム	
15	高齢者の生活と健康支援のための地域包括ケアシステムづくりの実際	<p>【課題】学生がテーマを選び、実習地域（養成機関がある地域でもよい）の地域アセスメントを行い、地域課題を明確にし、自助・共助・互助・公助を考慮した対応策をつくる。</p> <p>①高齢者のフレイル予防のためのケアシステム</p> <p>②老老介護・認知介護支援のためのケアシステム</p> <p>③独居の中老年者の孤独死予防のためのケアシステム</p> <p>④認知症高齢者の虐待防止のためのケアシステム</p>	第1章～第6章まで総合的に活用

評価方法	評価方法：試験（40%）、ワーク、レポート、プレゼンテーション、実技試験（60%）により評価する。
教科書・資料	・新体系看護学全書「地域・在宅看護論」：メヂカルフレンド社
参考図書	・看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術：メヂカルフレンド社